

## 平成 23 年度 第 3 回内灘町地球温暖化対策地域協議会 議事録

1. 日 時 平成 24 年 2 月 3 日（金） 13 時 30 分～15 時 00 分
2. 場 所 内灘町役場 3 階 301 会議室
3. 出席者 委員 14 名  
早川会長、多田委員、源代委員、森委員、表井委員、西田委員、  
八田委員、藤田委員、橋本委員、大笹委員、進藤委員、畠委員、  
北川委員、田中委員（堀委員代理）  
事務局 4 名  
町民福祉部 川口部長、北川環境政策課長、田中副参事、南主事

### 4. 内容

#### (1) 開会（会長）

#### (2) 事項

##### ①福井県池田町視察報告について（説明：事務局）

主に以下の内容について説明。

- ・池田町の取り組みを参考とした内灘町の今後のごみ量の削減

##### ②白帆台スマートコミュニティー構想について（説明：事務局）

主に以下の内容について説明。

- ・米沢電気工事が主体となり、産学官連携で行う「北陸地域のスマートコミュニティー事業化調査（実証調査場所：白帆台地区）」として、新エネルギー導入促進協議会の補助採択を受けた事業の検討概要

##### ③今後の取り組みについて（説明：事務局）

主に以下の内容について説明。

- ・平成 24 年度地球温暖化対策関係予算案
- ・平成 23 年度地球温暖化対策関係予算執行状況
- ・河北潟 U F O 事業に係る経過報告
- ・風力発電所売電に係る経過報告

##### ④その他

#### 1) 委員の任期について（説明：事務局）

- ・任期終了後（平成 24 年 5 月 27 日まで）の委員継続依頼

### 【質疑応答】

#### Q（委員）

可燃ごみについて、内灘町の一人当たりの量が河北郡市で一番多いのはなぜか。

また、平成 20 年度から平成 21 年度にかけて量がかかなり減っているのはなぜか。

#### A（事務局）

内灘町は少人数世帯が多く、一人当たりのごみの量が多いと考えられる。平成 20 年

度より常設リサイクルステーションを開設し、平成21年度より紙類の各戸別収集を開始したことで、可燃ごみの量が減り、処理費用の削減にもつながっている。

A（会長）

平成20年度から平成22年度の過去3年間の一人当たりのごみの量の推移を見ると、河北郡市の中では内灘町が一番ごみの量の減少が大きい。施策を進めて、一層の削減を図ってほしい。

Q（委員）

おいCまち内灘(循環型まちづくり取組み団体)では生ごみ堆肥の活動を行っており、家庭の生ごみを堆肥化し、個人の畑や町のふれあい農園で使用している。内灘町は団地が多く農地が少ないため、津幡町などに比べると各家庭で堆肥を消費するのは困難だと思うので、できた堆肥を公民館で回収できる方策などを検討していただけないだろうか。住民主体で取り組むべきことではあるが、この活動は食育や健康増進にもつながる活動であるため、行政の幅広い支援も必要になる。

A（委員）

まちづくり基本条例の理念とも関係することであり、住民が協力してやっていければ良いと思う。

A（事務局）

団体に対する支援や回収方法の仕組みなど、関係課とも協議しながら内灘町にあう形で検討していきたい。

Q（委員）

白帆台スマートコミュニティーについて、今回の調査の結果、具体的に何か話が進展する場合は、しっかりと事前に白帆台住民に説明していただきたい。

A（事務局）

町民のメリットと企業のメリットを勘案する必要があり、具体的な計画ができた段階で説明する。

Q（委員）

エコエネルギーシステム設置費補助金について、家庭用燃料電池を追加できないか。現在は価格も少し安くなってきており、太陽光発電とあわせて販売する業者も増えている状況にある。

A（事務局）

国の動向や低価格化が進むのを見極めて検討したい。なお、公共施設関係では、平成21年度にサイクリングターミナルに燃料電池を設置している。

町の大切なエネルギー資源である風力を推進するため、平成24年度新規に小型風力発電設備を追加する予定である。

(3) 閉会（事務局）

以上